

イメージキャラクター
「ベエズ」

みなとしみず

発行

国土交通省中部地方整備局
清水港湾事務所
御前崎港事務所/下田港事務所/田子の浦港事務所
静岡県清水区日の出町7番2号
TEL. 054-352-4146 (代表)
<http://www.shimizu.pa.cbr.mlit.go.jp>

奥田薫新所長 着任のあいさつ



(奥田 薫 所長)

(略歴)

昭和38年9月 北海道生まれ
昭和63年 春 北海道大学工学部卒業 運輸省入省
平成17年8月 航空局 建設課 課長補佐
平成19年4月 関東地方整備局 地域港湾空港調整官
平成21年4月 現職

4月の人事異動で清水港湾事務所長を拝命しました。着任後、静岡地域を中心に活躍されている経済界の方々など関係の皆様にご挨拶させていただき、早々に(執筆の4月上旬現在)、経済活性化に対する皆様の熱意、思いを感じています。その中で、経済活動基盤のひとつである港湾について、利用振興に向けた今後の展開に対する皆様の期待が高いこと、改めて認識しているところです。身の引き締まる思いでございますとともに、国の港湾行政官として大変恵まれた環境で仕事させていただくことに感謝し、微力ながらも全力で諸課題に取り組む意を新たにしています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

港湾は、物の流れ、人の流れ、市民の憩いの場・・・様々な場面がありますが、経済活動や国民生活の一部を担う場として、そこに何ら支障となるものがなく、スムーズにことが行われるように調整することが港湾行政の役割であると認識しています。こういった観点で、利用者の生の声を聞きながら、関係の皆様とよく話をすることを最優先に仕事をしていく所存です。

私自身の紹介をさせていただくと、自称最後のもったいない世代です。古い、壊れたというだけでものが捨てられず、何とか自分で修理を試みるようなところがあります(再び使えるかどうかは別問題ですが・・・)。仕事でも、白地にフリーで絵を描くより、既存の制度や枠組みを、新しい課題や情勢に合わせて変えていくことにより興味があります。こういった自分の趣味的感覚も使いながら、清水の地で新たな気持ちでがんばりたいと思っています。皆様のご指導をよろしくお願い申し上げます。

《転任のあいさつ》 前 清水港湾事務所長 藤井 敦

この度、4月1日付けで異動となることになりました。二年間皆様には大変お世話になりました。二年の間には、清水港新興津コンテナターミナル、日の出埠頭の改修、下田港の防波堤、田子の浦港の中央地区岸壁、御前崎港の防波堤など数々の直轄工事と、県内各港の振興のための業務を担当させていただきました。また、私生活の面でも静岡県のすばらしい自然、文化、歴史にふれることができ、そして何よりも地元の皆様と深くおつきあいさせていただいたことに心から感謝しております。

今後は、JICAの長期専門家としてカンボジアに派遣され、同国の公共事業運輸省にて運輸・交通の発展のため微力を尽くす所存です。

清水港湾事務所は4月からは奥田薫新所長のもと、静岡県の港を通じた地域の発展に努めて参りますので引き続きよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。



Photo : A. Fujii

みなとへの想い

伊東市長 佃 弘巳

当市の海岸線の長さは約42kmに渡っており、その中で一番大きな港が伊東港であり、先人から昭和の初期にはマグロも捕れたと聞き、古くから漁港として、また物流の拠点として栄え発展し、夏には多くの海水浴客が溢れ、街中には豊富な温泉があり多くの観光客も来遊いたしました。

しかし、社会経済情勢の変遷により衰退しつつあるところに、昨年の経済不況や東海汽船の運行休止などから、伊東港を訪れる観光客も減小し、その対策として老朽化した伊東港観光栈橋を東海汽船の大島航路再開を目指し、ジェットフォイル船が接岸可能となる再整備や、「海の駅」であるサンライズマリーナでは、海からの来遊客の利便を図るためのビジターバースの増設、「道の駅」である伊東マリンタウンには一度に70人利用できる関東最大級の延長43mの足湯を設置するなどの施設整備を図り、港と街中が連携できるまちづくりを進めております。



伊東マリンタウン足湯完成予想図



全43m、関東最大級の足湯施設 平成21年4月 完成予定

また、当市を始め伊豆半島地域は、地形等により物流状況も悪いことから物価も高く、さらには大災害が発生したときの交通対策等も脆弱であり、地域の発展また安全に大型船接岸可能な岸壁整備の必要性を痛切に感じているところです。

結びに富士山静岡空港が6月に開港されることから、伊豆地域全体の発展の機会と捕らえるとともに、海からの誘客、また首都圏からのさらなる誘客も期待できる陸上交通と海上交通の連携が取れた港湾整備を目指してまいります。



道の駅「伊東マリンタウン」



伊東観光栈橋

～海外ポートセールスにおいて～

清水港湾連絡協議会 会長（清和海運株式会社 代表取締役社長）宮崎 総一郎

私が清水港の海外ポートセールスに参加させていただくようになって、もう30年以上が経ちます。

この間、北米、アジア、欧州の主要な港湾を20港以上、公式に見学する機会を得ました。シンガポールやロスアンゼルス港のように複数回以上訪問した港も多くありますから、延にすれば、30港を超える港を公式に訪れたこととなります。百名山ならぬ百ポートにはまだまだ程遠い数字ですが、それでもよく回って来たという感じです。

港湾の運営母体は国によって千差万別、それぞれの国の歴史、地方への分権の程度によって大きく変わります。

シンガポールなどは、現在は民営化されていますが、港湾は国家そのものです。韓国の釜山港も同じです。反対にアメリカは、中央政府は地方の港湾整備にはほとんど関与せず、権限も持っていないとのことです。



ポートセールス（ロスアンゼルス港湾局を訪問・視察）

今から17年も前のことですから、随分古い話ですが、平成4年秋、ロスアンゼルス港湾局を訪問しました。

到着すると、港湾局長が港湾審議会に出席しているので少し待って欲しいとのこと。待っていると、良かったら審議会を皆さんで傍聴しませんかと言われ、十数名で審議会を見学、傍聴させていただきました。

委員会が終了したあと、ここで決まったことは国の承認をどのような手続きで取り付けるのか、質問したところ、若干怪訝な顔で、「環境や水路等個別の許認可は必要なものの、計画そのものの承認は必要なく、ここで決まったことが最終です。」とのことでありました。中央政府の指示が、隅々まで及んでいる我々から見ると米国の分権のあり方は、驚きでありました。

港湾のハードとソフト、都市計画との整合性など、日本の現状は国、県、市の役割が重複しています。シンガポールのように国が一元管理するのか、あるいはアメリカのように名実共に国から切り離して管理運営するのか、あるいは第3の道を目指すのか、古くて新しい課題です。この成熟した時代だからこそ、もう一度考えるべきテーマだと思っています。

本ページの写真提供：清水港湾連絡協議会

平成20年度 清水港利用者懇談会を開催しました

港湾整備にかかる調査・計画・事業を行うにあたっては、地元の皆様のご意見やご要望を踏まえることが必要不可欠です。

そこで、日頃、港湾を利用している企業の方々、清水港の振興に携わる方、並びに、静岡県、静岡市の方々にお集まりいただき、清水港利用者懇談会を開催しました。

懇談会では、物流機能の強化や、周辺道路のアクセスの改善、賑わい拠点の再整備、大規模災害発生時における速やかな機能回復など、清水港の抱える種々の課題について意見交換を行いました。

特に防災対策のあり方については活発な議論がなされ、行政と民間との連携強化や、道路や橋などの周辺施設の被害想定を含めた検討が必要であるとの意見があり、清水港全体での防災対策が共通の課題であることがわかりました。ほかにも、日の出地区や富士見地区、折戸地区の今後の利用方法や、港湾施設を活用した見学会の推進など、様々な意見を伺うことができました。

今回の議論を踏まえ、今後の清水港における港湾行政に反映して参ります。



平成21年3月13日に開催された清水港利用者懇談会の様子

～田子の浦漁協～ 外山組合長さんにお話を聞きました

「砂は東にしらすは西に」

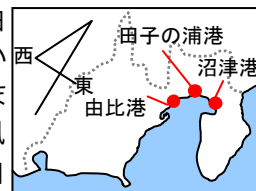
田子の浦港内には漁港区があり、そこで水揚げされる”しらす”は知る人ぞ知る田子の浦の名産品です。田子の浦漁業協同組合の外山廣文組合長さんから、しらす漁にまつわる、おもしろい話を伺いましたので、ご紹介します。

【砂は東に、しらすは西に】

由比から沼津にかけての海岸近くの流れは、由比側から沼津に向かって流れているので、砂も東に向かって動いている。しらすもこの流れにのって移動しても良さそうなものだが、昔から、沼津でしらすが大漁になれば、次の日は田子の浦で大漁になり、その次の日は由比で大漁になるといった具合に、しらすの群れは西に向かって移動している。魚は流れに向かって泳ぐ習性があるものだが、あんな小さなしらすが、そんなに移動するのは不思議なもんだなア。

【東風が吹くと由比が大漁】

東から風が吹くと、西の由比あたりの地形はくぼんでいるので、そこにしらすが集まる。この地域の漁師は、東風が吹くと「由比は大漁だなあ」とぼやく。本当に由比は良い場所だよなア。



現場から

下田港検潮所が津波情報が発表される観測地点となりました

清水港湾事務所では、下田港内に検潮所を設置して潮位観測を実施しています。現在の検潮所は平成8年に下田市柿崎弁天島に設置したものです。

同検潮所につきまして、4月1日から気象庁が津波情報を発表する観測地点となることになりました。

このことにより、津波発生時においては、気象庁から下田港検潮所の観測値が津波の観測値として発表されます。また、津波警報・注意報発表直後に発表する津波情報(津波の到達予想時刻・予想される津波の高さに関する情報、各地の満潮時刻・津波到達予想時刻に関する情報)においても、予想される津波の高さ等が発表されます。なお、下田港検潮所の常時の潮位観測値については国土交通省のナウファス(全国港湾海洋波浪情報網)のホームページ上で公開しています。



下田港検潮所全景



下田港全景 H21. 2. 2 撮影

ナウファスhp... <http://nowphas.mlit.go.jp/index.html>

現場から

下田港にフローティングドックが来ました

伊豆半島の先端に位置する下田港では、緊急時の船舶の避難場所として、また、津波から街を守る事を目的として、昭和60年から国の直轄事業により防波堤の整備が進められています。

下田港の防波堤は、ケーソンと呼ばれる高さ約20m、重さ約3,500tのコンクリートの塊をいくつも並べて作っていきます。下田港内で使うケーソンはとても大きくて重く、陸上で作ることが出来ないため、フローティングドックと呼ばれるケーソン製作用の船の上で作ります。

現在は、清水港の製鉄所から運ばれてきた鋼殻(鉄製の箱)がフローティングドックに載っており、鋼殻の周りにコンクリートを打つ準備をしています。



フローティングドック「つくし」
最大7,000tまでのケーソンが製作できます。

下田港内を見渡すと、ブルーのフローティングドック「つくし」が作業している様子を見ることが出来るかも知れません。

＜訂正とお詫び＞

日頃より、「みなとしみず」をご高覧いただき、誠にありがとうございます。

前号(第89号3面)で掲載しました、『御前崎港が「楽器の輸出日本一」になりました』におきまして、誤った記載がありましたので訂正いたします。

文中“楽器メーカーが御前崎港を積出港として利用するようになったため”と記載がありますが、読者の方からご指摘をいただき、積出港は御前崎港ではなく清水港であることがわかりました。

通関手続きを御前崎港で行っているため、通関上の統計としては、御前崎港が全国1位となります。

誤った情報を発信してしまい、誠に申し訳ございません。今後とも「みなとしみず」をよろしくお願い申し上げます。



海とみなとの相談窓口



全国共通フリーダイヤル

おーいに よくなれ みなと

0120-497-370

受付時間: 9時30分～12時、13時～17時(土・日、祝祭日は除く)

☆携帯電話・PHSからもご利用できます☆

- ・海やみなとの利用に関すること
- ・総合的な学習時間に関すること
- ・みなとの構想や計画に関すること
- ・海洋土木技術に関すること
- ・みなとの防災に関すること

その他、海とみなとに関することは何でもお問い合わせください

■本紙に関するお問い合わせ先■

清水港湾事務所 企画調整課

太田・屋敷

電話 054-352-4148

e-mail

shimizukouwan@pa.cbr.mlit.go.jp